



諏訪山城を知る

北から南方面（榎原）を望む

街道の護りとして造られた城

【城郭データ】

城郭銘：諏訪山城（すわやまじょう）

（別称）：勝山城（かつやまじょう）

時代：戦国時代

主な城主：陶（朝倉）弘詮

〔すえ（あさくら）ひろあき〕ほか

主な遺構：堀切、豎堀、土橋、切岸

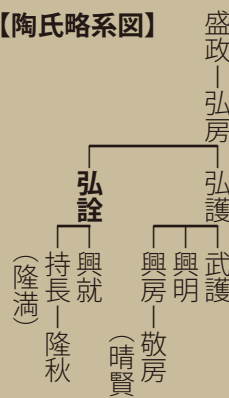
登山条件：肥中街道より登山道あり

所在地：下関市豊田町大字榎原

【諏訪山城の概要と特徴】

室町時代、全国屈指の守護大名であった大内氏が中国や朝鮮半島と交易をするために現在の豊北町と山口市の間についた肥中街道の抑えとして、家臣の中でも重鎮であった陶弘詮に守らせた。肥中街道が通る南側を正面とし、背後は川と急斜面による自然の地形により守られている。正南側に造られた斜面を縦に切り開いた3本の「豎堀（たてぼり）」が侵入者の動きを制限する造りで、特に真ん中の大きな豎堀は巨大で見ごたえがある。

【陶氏略系図】



文化人でもあった陶弘詮。知的感覚に優れ大内氏の重鎮たる雰囲気にあふれる。

諏訪山城のあるところ～肥中街道が通る城下町

付近にはゆかりの寺院や神社が建立され、家臣達も居を構えたと思われる。肥中街道沿いにさながら城下町が造られた。当時のにぎわいは現在に残る社寺等の街並みと道路で想像ができる。



A. 陶弘詮が亡き母のために建立したとされる妙栄寺。山門には小早川隆景法名の扁額がある。



B. 肥中街道は榎原を横断して通っていた。現在でもその名残が残る。奥には正念寺がみえる。



C. 肥中街道沿いにある諏訪神社。陶弘詮の建立とされる。現在社はなくっている。



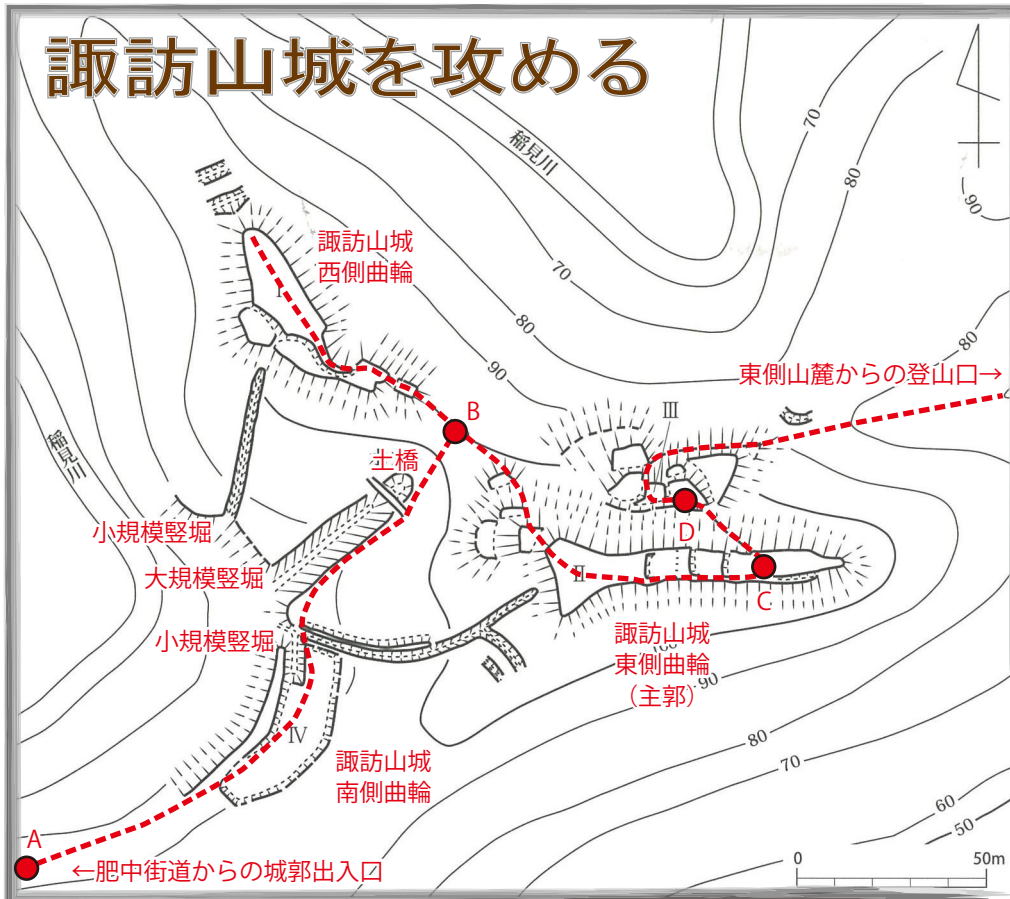
D. 旧養鶏場の案内板。ここでは、城主が日常を過ごした館跡といわれている。現在は太陽光発電所で鶏舎もない。

【アクセス】

豊田生涯学習センターから豊田総合支所の前を通り北へ向けて妙栄寺に。妙栄寺から城跡までは徒歩30分ほど。車はセンターか支所に駐車。



諏訪山城を攻める



A: 肥中街道から分岐する城郭への出入口。街道の先は館跡へ続く。



B: 諏訪山城の最大の特徴である巨大な竪堀と土橋（人物位置）。



C: 諏訪山城の東峰にある主郭。各曲輪との間を連絡通路で結ぶ。



D: 主郭の北側に取り付く小規模な曲輪。主郭を防御する役割と考えられる。

【諏訪山城の縄張り】

肥中街道側からの侵入を想定した造り。二手に分かれた丘陵にそれぞれ主要な曲輪を置く（東側曲輪、西側曲輪）。前面の緩やかな斜面が弱点であるため、3つの竪堀を配置し、侵入者の平行移動を制限させる。特に真ん中の竪堀規模は大規模で土橋も設け、竪堀を登ってくる侵入者を迎え撃つ役割を持つ。東側の曲輪には、北側と西側にも小規模な曲輪群を持ち、内部には通路と虎口もあることから、この城の主郭と想定できる。

もっと諏訪山城を知りたい…

【参考となる資料】

- ・「山口県中世城館遺跡総合調査報告書 - 長門国編 -」（2017）山口県教育委員会
- ・「日本城郭体系 第14巻」（1980）(株)新人物往来社
- ・「山口県史通史編中世」（2012）山口県
- ・「金剛山妙栄寺史」（2018）金剛山妙栄寺
- ・「目で見るふるさと豊田の歴史と文化」（1999）豊田町教育委員会

【参考となる場所など】

- ・豊田町文化財資料室：豊田町域の縄張図等を展示。館長さんに聞くもよし
- ・榎原ゆうあい会：城郭を整備し、講座等も開催。事務局長柴田さんに聞くもよし。（事務局Tel: 083-766-1397）
- ・金剛山妙栄寺：諏訪山城由来の古寺名刹。ご住職さんに聞くもよし。



豊田町文化財資料室が入る、豊田町図書館。資料など調べてみることをお勧めします。



榎原ゆうあい会事務局長の柴田さん。道しるべや看板なども整備しています。